

【フランス語】

読書案内

自習教材

最初に断っておくと、特別な教材などなくても自習はできる。教科書の例文を繰り返し発音し、単語を置き換えて練習するだけでも相当な効果がある。外国語の勉強は体を鍛えるのに似ている。最新のトレーニング・マシンがなくても、腕立て伏せや腹筋運動はできるはずだ。「何かいい参考書はないですか」と探し始めるのは、上達への第一歩であると同時に、人によっては脱落の兆候でもある。上達の手助けとなることを願いつつ、いくつかの教材を紹介することにしよう。

・目黒士門『現代フランス広文典』（白水社）

初心者から上級者まで使える実に良くできた文法書の王様の存在。ロングセラーの改訂版。例文も豊富でわかりやすい。

・久松健一『英語がわかればフランス語はできる！』（駿河台出版社）

英語の知識を活かしながらフランス語の仕組みを理解するのに役立つ。

・中井珠子／南玲子／飯田良子『フランス人が日本人によく聞く 100 の質問』

フランス語で日本について説明するために書かれた教材。中級者向けだが、初心者にとっても日本社会や文化を外国語でどう説明するのか、考える上で参考になる。

・釣馨／武内英公子／ジスラン・ムートン『日本人が知りたいフランス人の当たり前』（三修社）

日本人の目には不思議に映るがフランス人にとっては普通だと感じられる事柄を、50 のテーマと 100 の質問で説明している。仏・日対訳構成で、日本語の文章はかなり拙いが、日本とフランスの違いをざっと把握するのに向いている。初級文法を終えれば、対訳を頼りに中級自習教材としても使える。

フランス全般

・東京都立大学フランス文学研究室（編）『フランスを知る 新〈フランス学〉入門』（法政大学出版局）

民族・言語・文学・思想・地理・日仏関係にわたってフランスを論じた好著。フランスを総合的に知るには格好の入門書となる。

・現代フランス社会を知るための 62 章（明石書店）

現代フランスの政治、社会、文化を 62 のキーワードから読み解く。

・ミシェル・ヴィノック『フランスの肖像——歴史・政治・思想』（吉田書店、2014）

政治史を専門とするフランスの歴史家が、外国の学生からよく受ける質問に答えるという形で書かれた本。全 30 章。

・小栗左多里／トニー・ラズロ『フランスで大の字』（ヴィレッジブックス）

『ダーリンは外国人』でおなじみの著者二人が、フランス各地でさまざまな体験にチャレンジする。香水作りや風変わりなスポーツなど、そこにはあなたの知らない世界があるはずだ。自分でも何かやってみたくなるかもしれない。

・『ふらんす』（白水社）

フランスをテーマにした月刊誌である。四月号からは紙上でフランス語講座が始まる。評論や映画の対訳シナリオなども収める。

資格試験

・『実用フランス語技能検定試験・仏検合格のための傾向と対策』（エディション・フランスーズ）

仏検 (<http://apefdapf.org>) の対策本である。LL 自習室には、4 級から 1 級までの本が用意されている。1 年の秋に 4 級、2 年の春か秋に 3 級というのが目安となるだろう。

・ABC DELF - CLE international

フランスが主催している検定試験として、DELF と DALF の二種類がある (<http://www.delfdalf.jp/>)。国際舞台での活躍を目指すなら、最初から DELF の取得を目指すといい。DELF と DALF は、6 つの独立した免状によって構成され、それぞれ「言語に関する欧州共通基準」 (<https://jp.ambafrance.org/article1825>) で規定する 6 等級区分に対応している。受験者は自身のレベルに応じ、希望するレベルの試験から受けることができる。LL 自習室備え付けの上記教材でしっかり勉強しよう。

フランス文学

・横山安由美／朝比奈知子（編）『はじめて学ぶフランス文学史』（ミネルヴァ書房）

時代思潮の説明の後に、代表的な作家や作品についての解説がある。原文と翻訳を掲げたのが特色で、もちろん翻訳だけ読んでも支障がないように作られている。

フランス芸術

・高階秀爾／三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』（新書館）

主要な芸術家に関する基本情報を掲載しながら、フランスを含めた西洋美術の歴史をコンパクトにまとめている。

・今谷和徳／井上さつき『フランス音楽史』（春秋社）

中世から現代までのフランス音楽の歴史を、社会的・政治的な背景も交えながら概観している。入門書というよりは、一定の知識を要する専門的な内容になっている。